



知床における国立公園と 国有林との連携について

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター



管内概要 知床森林生態系保全センター

知床自然遺産区域（陸域）の94%を占める国有林野を知床森林生態系保護地域とし、エゾシカの捕獲、植生の採食圧やサケ類の遡上数等の生態系調査のほか、関係機関とともに登山客等に向けたヒグマ出没情報の発信や世界遺産地域の適正利用に向けた歩道整備や普及啓発などを行っています。

図1 知床世界自然遺産区域と森林生態系保護地域



知床世界自然遺産区域

71千ha
(陸域のみ) 48,7千ha

森林生態系保護地域(保護林)

45,989ha

関係町

斜里町、羅臼町



写真1 知床で見られる野生動植物



写真2 流水と夕日

◆はじめに

北海道の知床地域は北海道東部のオホーツク海と根室海峡に面し、北半球で最も低緯度で流水を観察できる地域です（写真2）。海と陸の結びつきが顕著で特異な生態系を有すること、南方系と北方系の生物が混在し、多くの国際的希少種が息する生物多様性が評価され、平成17年に日本で3番目の世界自然遺産に登録されました。遺産区域の陸域のうち94%は国有林野であり、林野庁では平成2年から当該区域を森林生態系保護地域に設定して厳格な保護・管理を行ってきました（図1）。

このような中、令和2年10月に農林水産省と環境省は「コロナ後の経済社会の再設計（Redesign）」に向けた「農林水産省×環境省」の

連携強化に関する合意」を行い、その中で「国立公園と国有林が重なる地域における優れた自然の保護と利用の両立を目指して、これまでの連携を基礎にして、重点事業や地域を特定し取組を推進することとした。その重点地域とされている知床における、現場レベルでの様々な連携の取組を紹介します。

◆ 外来種の駆除

知床では外来種の侵入が問題となっているため、分布拡大を防ぐ駆除を実施しています。今回の環境省との合意により、知床に侵入している外来種の情報共有のほか、合同での駆除が実施しやすくなりました。

中でも、開けた環境を好むアメリカオニアザミは観光スポットにも個体数が多いため、環境省を含む関係機関と



写真3 アメリカオニアザミの合同駆除



写真4 知床五湖から望む知床連山



写真5 カムイワッカ湯の滝(1の滝)



写真6 近自然工法による施工箇所



写真7 登山口看板の点検

合同で駆除を実施し、作業を通じて知床に侵入している外来種の情報やその除去方法について、訪問される方に普及啓発を行っています(写真3)。

また、令和4年度からの新たな取組として、オランダガラシ(フロンソ)の駆除も環境省・羅臼町(オホーツク)との駆除も環境省・羅臼町と合同で実施しています。今年度は熊越の滝周辺で7月と8月に実施しました。駆除した箇所本来生息していた在来種が定着するように引き続き取り組んでまいります。

◆ 登山道の維持管理

知床半島中央部には日本百名山にも選ばれている羅臼岳(1661m)を始めとする知床連山があり、年間5千人以上が登山しています(写真4)。

連山の中でも、硫黄山は噴火の際に大量の溶融硫黄を噴出する活火山と

して世界的に知られ、山麓には強酸性の温泉が流れるカムイワッカ湯の滝があります(写真5)。これら羅臼岳と硫黄山にかけては3本の登山道があり、林野庁と環境省が合同で維持管理を行っています。羅臼岳では令和3年度から「近自然工法」により登山道整備を実施しています(写真6)。

従来の登山道整備では製材やプラスチック土嚢等の人工的な資材を使用した箇所もあり、景観上好ましくない等の欠点がありました。近自然工法により、現地にある木や石などの資材を用いて、景観を損なわずに自然に近い構造で登山道を修復することができると、知床では今後、この工法による整備を広げてまいります。

◆ 看板・標識等の整備

知床には看板、標識等が散在し

ており、経年劣化により付け替えが必要なものや、同じ箇所にも林野庁・環境省双方の標識が設置されているところもあります。既存の看板、標識の集約化や共同での整備も念頭に、環境省と合同で看板、標識等のリストを作成しました。今後は観光客の方々の利便性の高い情報発信に向けて、看板、標識等のデザインの統一や多言語化対応など、連携して効率的な整備を進めてまいります(写真7)。

◆ おわりに

国立公園と国有林の連携については自然環境の保護と利用の両立が図られるよう、今後も環境省のみならず地方自治体、NGOなど他の機関とも連携してより一層の取組を進めてまいります。